



焼板工作

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・活動の思い出となる手づくりのクラフトを作り上げることができます。
- ・火を使う活動を行うことにより、火の特性など学ぶことができます。

【教科への対応】 小学校：図画工作など 中学校：美術、技術・家庭など

【組合せ可能な活動プログラム】 ぐるぐる火起こしなど

2 活動の概要

杉板材を焚き火で焼き上げ、たわしで磨き、オリジナルな木工品を作る活動です。布で更に磨いた後、絵の具で文字や絵を描き、思い出の作品に仕上げます。

- (1) 人数 【キャンプセンター】120人以内
【自然の家体育館横】60人以内
- (2) 対象 小学校5年生～中学生・高校生
- (3) 期間 4月～11月
- (4) 時間 2～3時間（説明30分+活動90～150分）
※焼板のみ（絵付けなし）は1.5時間程度
- (5) 場所 キャンプセンター、自然の家体育館横
- (6) 経費 250円／1作品
- (7) 指導 製作方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。



<作品例>

3 準備物

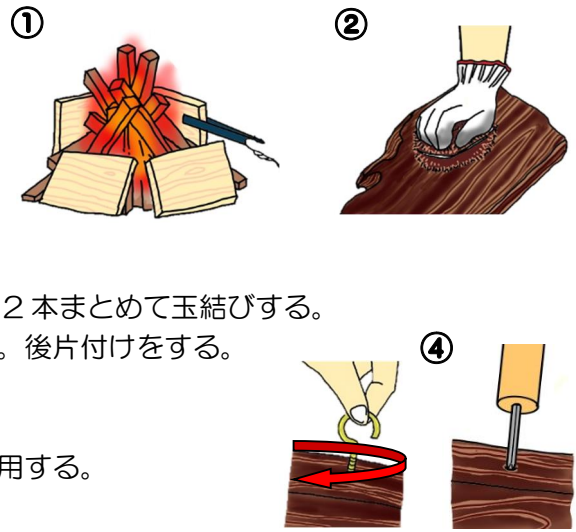
団体	救急薬品
個人	汗拭きタオル、軍手、布きれ、作品を入れるビニール袋、汚れてもいい服装、マスク
自然の家	材 料：杉板、ヒートン（2個）、ひも、アクリル絵の具 用 具：火ばさみ、亀の子たわし、絵筆、筆洗いバケツ、パレット、パレット洗いたわし、キリ、ゴミ箱 ※バーベキューコンロ（体育館横のみ） その他：薪、着火剤、マッチ又はライター、バケツ水

4 引率者の役割分担

代表責任者	1名。全体の総括、指揮、連絡にあたる。
火の管理・活動支援者	【キャンプセンター】数名。かまどの火の管理及び製作補助・かまどの清掃を行う。 【自然の家体育館横】数名。バーベキューコンロの火の管理及び製作補助を行う。
スス落とし担当者	数名。亀の子たわしを使ってのススの落とし方を指導・支援する。 ※ススのおとし具合をチェックする。
用具担当者	1～2名。用具の配付、管理及び製作補助を行う。

5 活動の流れ

	内 容	
説明	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を提示しながら、作り方について説明 用具の使い方と安全について説明 服装（長袖・長ズボン・帽子・軍手・汗ふきタオル）について説明 	
活動	<p>【キャンプセンター】</p> <p>① かまどで杉板を焼く。 表裏面・側面まで焼き上がったら火ばさみではさんで、キャンプ場まで移動する。</p> <p>② たわしで木目にそってこすり、キャンプ場でススをおとす。 ※側面や板のくぼみもいねいにこする。</p> <p>③ 古布でみがいてつやを出す。</p> <p>④ ヒートンをつける。 ※板にヒートンが入らないときは 錐で小さく穴を開ける。</p> <p>⑤ ひもをつける。 ひもをヒートンの穴に通して、両端を2本まとめて玉結びする。 ※絵付けなしの場合はここまでで完成。後片付けをする。</p> <p>⑥ アクリル絵の具で絵や文字をかく。 ※アクリル絵の具は水でうすめず、使用する。</p>	<p>【自然の家体育館横】</p> <p>① バーベキューコンロで杉板を焼く。 表裏面、側面まで焼き上がったら火ばさみではさんで、流し台まで移動する。</p> <p>② たわしで木目にそってこすり、流し台でススをおとす。 ※側面や板のくぼみもいねいにこする。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 感想発表や友達の作品の鑑賞 用具の返却と後片づけ 絵筆やパレット等は絵の具を落とし、水気をふき取って返却する。 	



6 実施上の留意点

- 活動時間の設定は移動時間を加味した余裕のあるものとする。
(自然の家からキャンプセンターまで徒歩約10分)
- 自然の家体育館横で実施した際は、流し場にあるススを水で流してきれいにする。
- 出前講座等で、小学校低・中学年が実施する場合は大人がつくことが望ましい。

7 安全に実施するためのポイント

- 火を使う活動では、化学繊維やナイロン製品を着用している場合、火の粉により穴が開く可能性があるため、着衣やズック等を検討する必要がある。
- 火や焼けた板を扱うときは、やけど防止のため、肌を露出しないように注意する。
(長袖・長ズボン・帽子・軍手・汗ふきタオルの着用など。)
- やけど防止用のバケツ水を用意する。
- 移動時は「焼板通ります。」と周囲に声がけし、やけどを防止する。
- かまどの周りに用具や薪を散乱させておかないように注意する。

